

1990

今月の一笑 美男子でもないのに、いつも女性がそば

6月

に来る男あり。女性にわけを聞くと

「彼は無難なのよね」——

ブナンシなのだ。(加藤栄一)

若い男性にとっても、女性にとっても結婚難が続く現代です。

先月笑介の最新結婚略称には、早速返事が届きました。まずは、その作品から。

野本浩一作は先月のマザ婚、ロリ婚、キュウ婚(急婚、休婚)の他、以下の通りです。

カイ婚 (開婚) 高望みせずランクを下げて切り開く結婚。

(悔婚) 挙式直後から、しまったと悔やむ結婚。

セイ婚 (聖婚) ブリッ子がコロリと相手を代えた結婚。

パソ婚 コンピュータの総合判断で決めた結婚。

ファミ婚 結婚生活疑似体験ゲーム。子供、若者が熱中。

マイ婚 (舞婚) 「愛のセレブレーション」を踊り、キスシーンまで見せつける結婚。

(埋婚) 諦めて取り止めてしまいこんだ結婚。

毎月のジョークサロンの常連、曾田英夫さんの作品は、迫ってくるものがあります。

キン婚カン婚 (鐘婚寒婚) 金銭的に恵まれない結婚。

リ婚 (Re婚) 一度別れて、同一人同志が結婚する事。

レン婚 (連婚) 仲のいい友だちが続けて結婚する事。

ダイ婚 (大婚) 体の大きい人同志の結婚。

ミ婚 (三婚) 三回結婚する事。

シン婚 (侵婚) おしかけ女房・おしかけ夫。

(親婚) 親同志が決めた結婚。

シリ婚 (尻婚) お尻にはれて結婚する事、又は結婚して尻にひかれる事。

キョ婚 (虚婚) 心を偽った結婚。

ソウ婚 (捜婚) 縁を捜した末に出来た結婚。

ドラ婚 中日ドラゴンズの選手とする結婚。

なるほど、いろいろありますね。続いて、堀江勲さんからのものです。

キュウ婚 (急婚) 相手の気が変わらぬうちに急いで式を上げる結婚。

(泣婚) 嫌がる相手を泣き落としてする結婚。

(窮婚) 手鍋下げでの結婚。最近、流行らない。

(旧婚) 幼なじみ同志の結婚。

サイ婚 (妻婚) 妻帯者との不倫の結婚。重婚の別名、自由婚ともいう。

ホン婚 (香婚) 新婚旅行が香港の結婚。又は香港でする結婚。

バン婚 (番婚) 本命でなく、二番手・三番手との結婚。世の中、案外これが多く、結構うまく行っている。諦め切れずに、いつまでも、本命(最初の人)を追っていると晩婚になる。

いやはや、とにかく、今の世の中、様変わりです。思いがけない結婚、思い当たる結婚 沢山あります。皆様の幸せを心より祈りたいと思います。

5月のサロンでのことです。参加者の懇談が進む内に「出来るかどうかは分からないにせよ、皆で作品を集めて、我々のジョークの詰まった本を作ろう」という風に、話が盛り上がりまして来ました。目標を持って楽しくいこうと一致団結です。又ひとつ楽しみが増えそうです。皆様も是非、同例会あてに作品をお寄せ下さい。取り合えず、ここ暫くは、作品の収集に励もうということになりました。

5月のサロンで神山徹さんは神山南朝（南北朝の南朝と難聴に掛けてます）という名前で作った初めての作品を披露しました。一同、その教養に感服でした。

究極の唐詩人

ある時、唐詩選を読みながら、ふとこの時代の詩人で最高の詩人は誰かなと考えた。発想や表現、気韻、品格など、とつおいつ考えながら一人づつ消去法で消して行くと、最後に白樂天（白居易）が残った。

何故白樂天が残るのかと考えていると、隣室のテレビから歓声と共に一際甲高い声が、耳に飛び込んできた。

「のーこった残った、はっきょーい、残った」

公衆道徳

お国によって公衆道徳も異なる。我が国は、その点では未開国並だ。シンガポールなどはタバコを投げ捨てただけで罰金だそう、などと話していると、娘が、

「お父さん、ロンドンのある所などガムの投げ捨てても罰金よ」と言う。

イギリスは紳士の国だからそんな所もあるかな、と思いつつ、どの辺だい、と聞くと「バッキンガム」

お便りも幾つか届きました。先月笑介の京都市伏見区／牟禮丈夫さんからはカンパと共に1990年の新春 うまくない（馬句内）“川柳”5題 であります。

- (ウ) 内孫の写真見せ合う 囲碁仲間 (マ)
- (ウ) 腕ずもうしようという時いつもヒマ (マ)
- (ウ) ウーロン茶出てきて“中華”ご馳走様 (マ)
- (ウ) 内マタに謝恩のギャルがはくハカマ (マ)
- (ウ) 運勢を占うように回すコマ (マ)

毎年牟禮さんの年賀状を貰う人も、ウまいと唸ったとか。

もうひとり、つくばの賢人加藤栄一さんです。今月の一笑も頂きました。例によって「こばなしつくば」からであります。

国土庁は「東京一極集中の是正に向け、民間企業の地方分散を促進するため」同庁に「事務所立地ライブラリー（図書室）」を新設した。その結果、—この図書室を利用しようと全国から人が集まってきた。

○

お婆さんが、毎晩薬を七種類も飲まなければならない、というので、「よく順序を間違えませんか」というと「若い頃は、化粧品を七種類以上使っていましたから」

加藤さんのこばなしは、今後も沢山笑介したいと思います。

今月は平成笑話のサービス付きです。作者はサロン常連の矢柴茂雄さん。別の名を南家芝楽と言います。が、改名をするそうです。

『改名はこわい』

「えー、しょうもない話を一席、この同巢会のジョークの会を始めはった故山下広蔵はんは落語もお好きで『南茶亭気楽』という名を持ってはりました。

気楽師匠に、ジョークの会への入門を許された私も、

その真似をしまして『南家芝楽』（ナンヤシバラク）と洒落てみましてん。関西人ですよって『なんや、しばらくぶりやなあ、どないしてるねん』

という挨拶になってるし、また、なんと名前の矢柴の音が中にかくれていて、オッサレー！ と思ってつけたんですワ」

客Aの声：「渋谷の中国料理店の『南国酒家』と似てるな」

客Bの声：「芝エビをからっと揚げて喰うの楽しみや、芝楽や」

客Cの声：「シーッ、ちゃちゃ入れんと下手な話でも聞いたれや」

「どうもおおきに、実は私は司馬遼太郎先生の本が大好きですねん。あれ読むのが一番の楽しみ。そこで司馬先生を楽しむ、即ち『司馬楽』に改名しようと考えました。ついでに遼太郎に因んで『呑ン太郎』（ノンダロ）〈関西弁の感じでは呑もう呑んでやろうの語感〉とやったろかい。酒にはいやしいもんで、ほんなら『司馬楽』よりは『暫く』がぴったりや。どこぞで『暫く呑んだろ』。ふんふん、そこまでゆうんやったら

いっそ『今夜暫く呑ン太郎』と全部改名すると明快や、と明解国語辞典をもって自転車にまたがり、角をまがったら旧友とバッタリ

『おっ、なんやしばらく矢柴やないか、珍しいな、ちょっと飲む』

あわれ『暫く呑んだろ』のつもりが明け方まで『夜通し呑ン太』になってしまいましたん。二日酔いで頭ガンガン財布カラッポ。自転車にのったらスッテンコロリ、あゝ、やはり初心忘れるべからず。はじめの『南家芝楽』の方がよろしいようだな・・ヘイ」

パチパチ ガヤガヤ

客Aの声：「なーんや、しょもない話や」

私：「何也 庶務内？ ウンおもしろい名前や・・・いや、あかんあかん、改名（カイメイ）はこわい。えっなんや戒名（カイミョウ）、そんなもん、暫くいらん」

とは、言うものの、今後は芝楽改め司馬楽とのこと。どうぞ、宜しく。

今回登場の皆様、改めて御礼申し上げます。（文責：まだ名前の無い野本浩一）